

令和4年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

第3回全体会議 記録

日時：令和5年3月22日（水）
午後3時00分～午後4時50分
場所：刈谷市役所 3階防災会議室

出席者

団体名・役職等	氏 名
名城大学・教授	昇 秀樹
愛知教育大学 教授	大村 恵
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
株式会社おたより 代表取締役	塚本 裕晶
刈谷市自治連合会	杉本 常男
刈谷市公民館連絡協議会 書記	近藤 路依
刈谷市女性の会連絡協議会 会計	高岡 育代
刈谷市ボランティア連絡協議会 副会長	矢田部 寿子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 副理事長	長澤 勇夫
文化工房かりや 代表	久保田 富士子
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵
一般公募	大野 裕史
一般公募	面高 俊文
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛

欠席者

団体名・役職等	氏 名
刈谷市小中学校長会	尾出 知子
一般公募	及川 裕太

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部	部長	近藤 和弘
市民活動部市民協働課	課長	渡部貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	小原 崇照
市民活動部市民協働課	主事	内藤 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	江上 百花
NPO法人ボランタリーネイバース	副理事長・調査研究部長	三島知斗世
NPO法人ボランタリーネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

1 開会・あいさつ

- ・定刻になり、市民協働課課長が開会を宣した後、委員長から開会のあいさつがあった。

委員長：WBC が注目されたが、スポーツのように一定のルールの下で競い合い、勝負を決したらお互いにリスペクトしあう関係を、社会においても築けたら住みよいまちになる。刈谷市のまちづくりにおいても、お互いに気持ちよい社会づくりにつなげていきたい。

2 議題

(1)コーディネーター部会の協議報告について

■【資料1】を提示し、コーディネーター部会の協議結果について事務局が説明

(令和4年度の活動実績)

ア：まちコ派遣：9 件

- ・自治会や各種団体等から依頼を受け、研修会でのファシリテーションの実施が主な内容。
- ・事前打合せを含め計 21 回、のべ 16 人のまちコが担当。コロナ禍前と比べ少ない状況であるため、新たな派遣先として地域活動に注視する。

イ：まちコゼミ：全 11 回開催

- ・大野ゼミ（全 7 回）

まちコのスキルアップを目的に開催。Google を活用したオンライン支援を毎月実施した。今後は課題解決手法「マンダラート」を学ぶ予定である。

- ・塚本ゼミ（全 4 回）

まちコ活動のフォローアップを目的に開催。次年度は「まちコ個人の活動や歴史の共有」を実施予定である。

ウ：交流会：2 回

- ・12月10日（土）に実施。2 つのゼミを同時開催し、まちコ 6 名、世話人 2 名が参加した。
- ・3月4日（土）に実施。お互いの得意を紹介し合い、まちコの活動を知ってもらうための掲示物を作成。まちコ 7 名、世話人 1 名、学び舎受講生 1 名が参加した。

エ：まちコ育成講座「つなぎの学び舎」

- ・前期「実践編 みんなの対話お助け隊コース（全 5 回）」では 9 名が修了、後期「実践編 まちづくり活動お助け隊コース（全 5 回）」では 6 名が修了し、新たに 3 名がまちコに登録した。
- ・まちづくり活動の人材を育成するため、受講しやすい講座内容を検討する。

オ：コーディネーターのネットワーク化

- ・商工会議所青年部へのヒアリング結果をふまえて協議した結果、福祉や教育、地域活動においてもコーディネーターの必要性が認識されており、まちコが横につなぐ役割が期待されることや、市内でコーディネーターの役割をする人の出会いの場を設けることでネットワークの広がりが期待できることを確認した。まちコとともに、関わり方を検討する。

カ：まちコ登録状況の報告

- ・まちコ 32 名を対象に登録内容を確認し更新確認を行い、本日現在 22 件の回答を得た。
- ・まちコ個人のそれぞれの活動が確認できた。まちコ派遣活動の範囲を広げたり、まちコ同士の情報交換の機会を設けたりして、相乗効果を図る。

■質問・意見交換

【大野ゼミ：課題解決の手法に取り組む】

委員：まちコのスキルアップを応援する目的でゼミに取り組んだ。合同研修会で守随さんの講演を聞いた地区長から、課題を解決する手法を教えてほしいと依頼を受けて、まちコ 2 名と、2 回延べ 70 名の組長を対象に、マンダラートを用いた課題抽出手法を学ぶ機会を提供した。具体的なやり方が習得できたので、組で実践していこうとの声が聞かれた。

まちコの派遣活動に関して、ファシリテーションに加えて、課題解決する手法のスキルが広がった一例である。今後増やしていきたい。

委員長：リスキリング（学びなおし）として、IT や AI の技術など新しい時代に求められる役割を学ぶことが推奨されている。企業セクターの先進的な取組を第三セクターで取り組む意識を持ち、自らの価値を上げていくことも大切である。ファシリテーションにより確認した問題の解決をマンガラートという問題解決技法に取り組み、力や価値を高めていると認識した。

委員：全員からテーマを集めて、20 項目程度に絞り込んで取り組んだ。自分たちで選んだテーマで取り組んだため、問題意識、課題に沿った内容で身近であった。

委員長：まちコから取り組み始めて、町内会、市全域へと市民が問題解決能力を身に着けるまちに向けて、幅広く展開していただきたい。

【まちコの登録更新・個人活動の状況】

委員：まちコ登録状況について、回答のあった 17 件は更新されるということか。

事務局：本日時点で 22 名より更新の回答を得た。未回答の方には確認中である。

委員：更新の確認ができた方が来年度のまちコとなる。更新されなかった方へ理由を確認してフィードバックしていただけるとよい。

事務局：更新しない理由としては、年齢によるもの、市外に転出される等お聞きしている。

委員：一人ひとり活発に活動しており、それがまちコの活動を豊かにしていく。そうした形にながっていけるよう、今後の課題として検討いただきたい。

委員：「月 30 回」とは毎日活動しているということか。

事務局：組長として毎日活動していると聞いている。

【塚本ゼミ：まちコの個人活動を後押し】

委員：広報をテーマにゼミを始めた。が、コロナ禍で活動ができない状況をうけ方向性を検討した。ゲストを招いてまちコの起源を勉強した。まちコの個人の活動はお互いに知らないことが多いが、個々の活動を後押しして広報につなげるため、話を聞く機会を設けた。今後はまちコ同士がサポートしあう形につなげるほか、コロナが明けたら全体に関わる広報へと展開したい。

(2) 夢ファンド部会の協議報告について

■【資料2—1～資料2—3】を提示し、夢ファンド部会の協議結果を事務局が説明

（令和 4 年度夢ファンド補助金の実施状況）

- ・まちづくり活動支援事業補助金：3 件。3 月までに事業報告書の提出を受けて、清算を行う。
- ・まちづくりびと支援事業補助金：申請 3 件。いずれも清算まで完了した。

（令和 4 年度公開審査会 審査結果）

- ・1 月 14 日（土）公開審査会を開催。
- ・まちづくり活動支援事業補助金：申請 5 件。全て採択された。うち 1 件は、補助金申請額 5 万円のため、書類審査のみで採択を決定した。その他の補助金額は各 20 万円。
- ・NPO 法人設立支援事業補助金：申請 1 件。補助金額は 10 万円。

（寄附実績）

- ・市民からの寄附を基金に積み立て、寄附と同額を刈谷市も基金に積み立てる「マッチング・ギフト方式」を採用し、運用している。
- ・ふるさと納税による寄附が増えており、次年度以降、補助金の活用に向けて取り組む。

■質問・意見交換

【採択事業の実施状況について】

（刈谷映画倶楽部）

委 員：活動状況の資料、参加者数、制作した映像を見ることができるか。

事務局：映画倶楽部は、1 か月に 1 回講習を開いて映画をつくり、3 月 18 日に上映会が開かれた。

参加した回には 7 名程度が参加していたが、詳細な数は実績報告書により確認する。映像資料はまだ提出されていない。

（なかよし GS）

委 員：なかよし GS とは、どのような取り組みか。

事務局：今川地区富士松駅すぐそばの「なかよし広場」で、高齢者には健康体操や料理教室、母親には手芸教室、子供には紙芝居や人形劇教室を行っている。コラボ 70 補助金にて 100 万円補助を受け、コンテナを整備した。今年度は運営に 20 万円補助し、地域の方が集まり、野菜を買ったり、コーヒーを飲んだり活用されている。

委 員：看護師が主体となり地域の健康ステーションになっている。

事務局：講師を招いて、ゆるふわ体操を実践している。

委 員：社協の福祉事業も関わりがあるか。

事務局：市の補助を受けた事業もあれば、社協の補助を受けている事業もある。北部には、福祉委員会で構成される地区社協はまだないが、ボランティア団体への補助金が活用されている。

委 員：メンバーはボランティアとして関わり、従事している人が出資して運営する点が特徴である。

委 員：コーヒーの売上金が運営資金の中心となっている。

【書面審査の簡素化について】

委 員：申請額 5 万円以下の申請は、公開審査がなく書面により採択された。申請書類は他と同じ。5 万円のためにこれだけの資料をまとめられたと部会でも意見があった。書類審査のみとするならば、書類の内容を簡素化すると申請が増えるのではないか。次回の夢ファンド部会で意見をまとめることを検討いただきたい。

委員長：申請のハードルを下げるねらいでメニューを設けた。初心者の方や文書に慣れていない人であっても応援する趣旨を伝える。そのうち半数程度が次のステップにつながると市民活動全体が広がる。経験してもらうことで、やる気のある方は本選へ進んでもらうという趣旨。審査する側としては情報が欲しいが、書類が複雑になり趣旨が損なわれてしまう。趣旨を大事にしながら制度を再構築してほしい。

委 員：素晴らしい資料で自主的に提出されたものであるが理解が深まり、共感できた。

前年度の助成団体の傳兵衛クラブ刈谷は、今年 20 名で牛久へ出かけるなど、助成金を機にすそ野を広げて活動が活性化している。申請のために仲間を集め、発表内容をまとめることで、活動の説得性や地域のまきこみが高まるなど、申請がステップアップにつながっている。

委員長：団体自ら資料を準備するのは問題ないが、市が応募要件を示す際には、5 万円コースは簡素化した書類で良いと、初めて応募する市民が分かるよう応募要件を示していただきたい。

【ふるさと納税寄附の増加】

委 員：ふるさと納税による寄附額が多いが、人気の返礼品は？

事務局：一部を市民活動支援基金として活用している。食事券、地域で利用する電子マネーが人気である。

【団体規約の作成支援について】

委 員：団体規約の提出が追加されたが、作成の指導はどのようにしているか。5 万円以下の申請団体も提出が必要か。

事務局：今年度から要項を改正した。規約のひな型を紹介して、団体内で協議してつくるよう伝えている。申請額に関わらず提出いただいている。銀行口座を作る際に規約が必要となる。

委員：申請を機に規約を作成し、代表者個人の口座でなく団体口座へ入金ができるようになることは、管理が明確になって良い。が、申請のハードルを上げていないか、作成のサポート状況を確認した。

【補助率の改定について】

委員：5万円以下の申請はスタートアップの際に活用しやすいが、補助率を上げた方が始めやすい。現在経費の2分の1が補助対象であるが、5万円以下であれば100%でもよいのでは。数万円ではあっても捻出が大変で、一步が踏み出せない小さな団体や社会貢献をしたい人は多くある。補助率はなるべく上げていただきたい。

事務局：補助率を上げるといい面もあれば、すべてを税金で賄うことへの是非、何年間を対象とするか等の論点もあり、他市町の状況もふまえて、夢ファンド部会にて議論を続けたい。

委員：夢ファンドは継続的に活動することを趣旨に3年目から独り立ちするしくみである。これまで多くの団体が補助を受けているが、どの程度継続しているか。そうした情報を元に、例えば、初年度は手厚く、2年目以降は2～3割補助でも活動できるのか等、支援のあり方について議論できるとよい。

委員長：過去5～10年程度を対象に、3年間の補助が終わった以降の活動がどうなっているか。継続する団体には、どのように続けているか、続けていない場合は理由を可能な範囲で調査していただきたい。そのうえで、今後助成金の制度をどのように設計するか考えた方がよい。

(3) 市民協働事業の進捗状況について

■【資料3】を提示し、市民協働事業の進捗状況について事務局が説明

（共存・協働のまちづくり講座（学習編））

- ・入庁3年目職員39名受講。市民と行政が共存・協働のまちづくりを進めていくうえでの考え方と行政の対応を学ぶ目的で実施。「協働するとはなにか」について大野委員に講義いただいた。

（共存・協働のまちづくり講座（実践編））

- ・令和2・3年度係長・園長になった職員25名受講。様々な主体と協力・連携したまちづくりを進めるため、共存・協働のまちづくりにおける市民との向き合い方を学ぶ目的で実施。

（協働のまつり場）

- ・「河川愛護運動」をテーマに、元刈谷地区連絡協議会はじめ関連団体と関係課とともに、地元の自治会だけでなく、様々な団体が関わるようアイデアを出し合った。

（かりや衣浦つながるネット）

- ・刈谷市、知立市、高浜市、東浦町の市民活動情報サイト。今年度サイトがリニューアルされ、12月に新サイトの操作方法について、市民ボランティア活動センターで操作説明会を開催した。
- ・知立市「福祉健康まつり」でPR動画を配信した。

（わがまちのつむぎ場）

- ・12月4日午前・午後に分けて開催し、ボランティア団体や企業19団体が参加した。各団体が積極的に交流を行い、情報交換が行われた。

（しゃべり場）

- ・初対面の人同士がオンラインで交流を深めることは難しいと判断し、今年度は開催を見送った。来年度以降のしゃべり場のあり方について企画メンバーによる企画会議を開催した。

■質問・意見交換

【地域団体の存続にむけた議論の必要性】

委員：地域では、子ども会が廃止になったり、いきいきクラブの加入率も下がり、自治会に入らない人もいます。70 歳まで働いている人や共働き世帯が多く、昼間に地域に人がいない。外国籍の方も多い。取り巻く環境が変わっている中で、自治会の活動はやり辛くなっている。地区委員、自治会、公民館、氏子などどこも大変である。自治会の行事を地区長自らおこなっている。地区委員、組長は昼間働いていてできないため、地区長しかできる人がいない。地域の中での役割ややり方、住民の意識も、行政の仕組みの変化も必要となっている。他地域では、自治会の活動を通りに貼り出して地域の人が説明していたり、回覧版を LINE で始めたり、町内会費をコンビニ払いできるようにしたりしている。それが良いかどうかはわからないし大事なものが抜けている気もする。皆さんの意見が反映でき、若い世代も入り込めるしくみにしていくこと、子ども会に代わるものも必要かもしれない。それを本気で話す場所があるとよい。

委員：PTA も同じ状況である。

【地縁組織の実態をふまえて協議を】

委員長：委員会では、機能的な NPO への補助等を中心に取り組んできており、地縁組織への取り組みは行ってこなかった。まちづくりにはどちらも必要である。災害が起きたときに助け合うのは地縁型。それをどのように維持していくのか、日本全国で議論されている課題である。

委員：地区長会議では広報の配布が大変だから辞めたいと声が出るが、顔を見て安否確認ができる一番よい方法である。月に 2 回が 1 回になってもよいが、ゼロになるのはよろしくない。

委員：自治会の組織率については悩ましく、桜地区では 2 年前に 60% を割った。市全体でも 6 割程度である。市中央のため、移動市民が多い。借家や転勤、学生、外国籍住民を除き定住市民の加入率は 8 割を超えている。災害時や緊急時の見守りを考えると入らなければいけないが、地区によってばらつきはある。

委員：加入率は井ヶ谷や元刈谷が低いが、元刈谷は市民だよりの配布率が 98% と高い。

委員：高須の自治会加入率は 100% である。

委員：集合住宅では持って行ってもいらないと断られることもある。

委員：誌面は市ウェブサイトで見ることができる。配布数は世帯数調査としてカウントされる。

委員：コミュニティはつながりである。自治会も一つの手段であるが、他の手段もふくめて多層的につながりをつくる必要がある。

委員：70 歳まで働き、役員の成り手がいない。以前は定年後家にいる人もいたが、今はいない。

委員：老人会の加入資格が 60 歳であったが、今声をかけると 10 年待ってくれと言われるだろう。

委員：今までは一律、全戸配布・加入であったものから、希望に応じて、昼間いない世帯であれば声掛けが必要な先には配慮するなど、変化に対応できるようにしてはどうか。

委員長：検討すべき課題であるが、今日明日で解決する課題ではない。地縁型組織の加入率が下がっていること、地区ごとの違いを調査すること。そのうえで、定年年齢の変化により、人材が不足する環境の中で、どのように地縁型組織が現実的に存続可能となるか。災害の問題や、ごみ処理の問題について、同じ地べたを共有するものとして実際に具体的にどのように組織を作るか。共存・協働のまちづくりとして、NPO も大事であるが、地縁型コミュニティ組織をどうしていくか、少し時間をかけて、来年度以降、検討課題に加えていただきたい。

委員：マンションが自治会から退会した。理由は、自治会加入は強制されないという最高裁判例に基づいての判断であった。地方自治法では住民の責務とされており、考えたい。

委員長：司法の判断は、自由参加である。法律議論の場合、止める手段は残念ながらない。そうした条件の中で対処方針を検討しなければならない。

委員：危機管理の有識者に防災訓練について話をしてもらった際、助けて欲しいという人だけを助

けるので精いっぱいだから、助けてほしいという人だけ助ければよいという答えだったので、助けてほしいという人を増やさなければと考えた。実際に全てを助けることはできない。災害があった際は、隣近所の助け合いであり、基本はここにある。

委員：要支援者リストの掲載率は、6割である。自立している人、迷惑かけたくないからほっといてほしいという人、個々に働きかけて8割になった。努力次第で上げることはできる。

委員：隣近所の方と接触したくないからと町内会から抜ける人もいる。助けてほしい人を探っていくのは私たちの仕事である。助けてほしい人を集めていくのは近所づきあいにある。

委員：自治会に加入しない理由として、年齢により役が務まらないこと、会費の負担が大変なことがある。年齢や個々の状況によって役を務めなくてもよい会員枠を設けたり、生活保護世帯や困窮世帯は会費はいらないようにしたり、加入につなげることも検討したい。

委員：子ども会がなくなった後、有志が集まり昨年から子どもの集いの活動を始めた。地縁組織がNPO化したり、NPOが地縁組織になったりするのではないかな。

【まちコの活躍機会につなぐ】

委員：公園緑地課から魅力あふれる公園づくり構想のワークショップの市民公募の依頼を受けた際に、まちコ3名が参加した。1年間に6回策定委員会に参加し、市全体に5つある公園のあるべき姿を意見交換した。そうしたこともまちコの活躍の場であるので、活動報告にいられたらいい。いろいろな会議においてもまちコの活躍に広がっていくのではないかな。

委員：出来上がったものをパブコメで拝見したが、よい出来であった。

委員：参加して意見を言ったが、行政OBの立場もあり、委員の視点でどう思うか。

委員：公募市民は女性が多く参加しており、子どもを連れていきたい公園への想いが語られた。

委員：まちコ活動を広げる視点については、十分検討したい。地域のつながりについて、自身も厄年代表やPTA会長では苦勞した。調査やヒアリングなど、まちコ活動の中で地域の特色を知り、地域の課題、地域の支援の仕方が一律ではないことを踏まえて取り組みたい。まちコ登録者は、それぞれ仕事も持っていること、責任の重たさを感じて手が上がらない状況もある。まちづくり、地域のために何かやりたい志は持っており、個人として活動したり、活動していたことが団体になったりしている。団体が地域で助け合っていく関係づくりをしたり、コーディネーターとして各地区で活動している人のかけはしをする人をサポートする役割にまちコがなるとよい。みんなが地域をよくしたいと考え、助け合うことをゴールとするなら、デジタルの活用など手法は変容していけばよい。

【まちコゼミの広報支援について】

委員：まちコゼミでの広報について、プレスリリースも広報の一つ。まちづくりの活動は新聞、テレビに載るとモチベーションが上がったり、自分の住んでいるまちが取り上げられたことで、住んでいる人や関わっている人にも喜ばれるのではないかな。まちコ自身の自信にもつながる。そうしたところへも力をいれられるとよいと感じた。

【総合計画における共存・協働のまちづくり】

委員：令和5年4月から第8次総合計画が施行される。第7次ではまちづくりの羅針盤、共存協働の行動指針、進行管理の物差しと3つの性格付けであった。共存・協働のまちづくりの理念と、新しい総合計画に謳われる共存・協働とは、どのように関連づけされているか。

事務局：総合計画における共存・協働と市民協働の取り組みとの相違はない。自分ごととあることに変化はない。災害の際に市職員だけでは対応できない。過去の災害でも証明されているように、地縁組織も必要である。今後引き続きこの場で議論を検討したい。総合計画は施策として取り組むものであるが、基本方針については、こういうことをやっていったらどうかと、

推進委員会にて議論していただいている。引き続きご意見をいただきながら取り組みたい。

【元気な地域応援交付金 今後の展開】

委員：「元気な地域応援交付金」を活用したが、10 年経ち終了すると聞いている。今後の方針はどのように検討しているか。

事務局：元気交付金に関しては、令和 5 年度活動をもっていったん終了し、令和 5 年度中に検討を進める。

委員：基本方針 4 番目には夢ファンドとともに交付金が書かれている。地区長会議にて来年度限りと説明があったと聞いている。

事務局：元気交付金としては要綱にて終了を明記されているため、令和 5 年度の補助をもって終了する。今後については現在検討している。

3 その他

■これまでの共存・協働のまちづくりの歩み

事務局：3 月末をもって 2 年任期が終了となる。これまでのご助言ご協力に感謝申し上げます。委員任期満了に際し、共存・協働のまちづくりの歩みを確認する。

委員会は総勢 16 名で、地域、学校、企業などさまざまな立場の方が参加していること、2008 年度の基本方針策定以前から関わっていただいている方から、今期から就任され昨今の課題を届けていただく双方の立場が混在し協議できていることが財産である。

各委員からコメントをいただく前提で、全体でみると共存・協働のまちづくりがどのような現在地かを、資料 4 にまとめた。

資料の上部の表は共存・協働のまちづくり 6 本柱に関して、部会を形成している人材（コーディネーター）、財政支援部会以外にも、取り組んできたことを示した図である。

各々の柱が目指す姿を、市民ことばで表現している点が、刈谷市の特徴である。

下の図は、基本方針策定の前後からどんな整備が進んだかを年表で示した。委員会ではいろいろなアウトプットを出している。方針策定後 5 年目には、調査を行い「協働進捗評価」を行った。資金に関しても、夢ファンドの効果について調査している。近年では、コロナ禍による市民活動への影響、支援ニーズの調査をした。委員会を通してこうした調査や話し合いもできるので、次年度以降の委員会への提案等もコメントいただきたい。

委員長：上は共存・協働のまちづくりの 6 本柱をマトリックスにおいて力を入れたところが示され、下の図では時間軸において、取り組んできたことを整理いただいた。時間の都合、質疑の時間は設けず事務局にお戻りする。

事務局：今期で退任される、コーディネーター部会長を長年担っていただいた大村先生、委員長を担っていただいた昇先生の順にご挨拶をいただきたい。

【大村委員よりごあいさつ】

委員：2009 年から参加させていただき、つなぎの学び舎、まちコの登録制度について議論してつくってきた。本日のような活発な議論を来年度以降も継続していただきたい。

まちコの課題については、参加するまちコを励ますしくみを大事にしていきたい。まちコ全体のマネジメント、登録者や新しく入る人たちに、どう参加してもらうともっと力を引き出せるか、協働のつながりを仕組みで活動全体を活性化する仕事となるかが課題である。そのサポートを、ボラセンか、行政、あるいは、この委員会が役割を担うのかがはっきりしていないのが現状である。実際には 3 人の世話人の方が手弁当で支えてきた面があるが、組織的に支えていかないと、個人の頑張りでは疲れてしまうし、できなくなると活動が停滞してしまう。組織的にまちコを支えるマネジメントを検討していただきたい。

また、コミュニティワークの課題がある。自治会や子ども会の問題が出されたが、教育ではコミュニティスクールや地域学校協働活動など、コミュニティワークが今後の鍵になる。子ども会や PTA では、自発性を大事に、やりたい人がやれるときに参加していく活動に変えていこうという流れができてきている。自発性を大事にすることで、活動自体の魅力を高めていくこと。やらされる活動ではなく、自分たちが楽しめる、その活動にかかわることで人生が豊かになる、生活の質を高められる、そうした活動にしていくことが、参加する人を増やし、結果として強制的に集めていた活動から、自発的に進められるのではないか。そうしたことが県内市町においても実験的に進められている。コミュニティワークをゆるやかなネットワークとして、一人一人を大切にした生き活きと楽しいものにしていく。まちコだけでなく、防災や地域福祉においても、個人の救済と地域づくりをつなげていく重層的な支援が求められている。縦割りの行政が、一人の人や家庭を支援するのに関わっていくような重層的な取り組みをしていくときに、地域の人や NPO の役割は極めて大きい。地域福祉づくりに、まちコがどうかかわるかは大きなテーマである。共存・協働のまちづくりという行政の枠ではなく、広く刈谷市の中でコミュニティワークを必要とする部署とつながっていく組織や活動のあり方に変えていく。つなぎの学び舎にもコミュニティワークに関係する方がたくさん参加していけるような学習・研修の場にしていくことが大事である。そうした横串を刺していくことを担当課の皆さんにはお願いしたい。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。今後も愛教大に関わる者として、5 万円枠の補助金に学生の申請を検討するなど、一緒にがんばっていきたいと思います。

【昇委員よりごあいさつ】

委員長：2009 年 4 月に条例がつくられ、制定前からお手伝いをさせていただき、10 年以上経過したことに感慨を新たにしているところである。10 数年経過し、共存・協働はどのようになったか。

学会などで刈谷市の共存・協働のまちづくりについて聞かれたことが 4 回程ある。北海道から九州まで全国から問い合わせを受けた。この分野で刈谷市は先進地の一つであるといえる。なぜ先進市となれたか、一番大きくは竹中市長の存在である。この問題について理解をしていただき、部・課として市民協働課という組織を設け、スタッフを配置し、さらに行政だけでなくボランタリーネイバースと共に、市民協働で進めていく体制を作ったことが大きかったと私は考える。

自身も、地方自治・まちづくりを主な研究対象とする中で、NPO や町内会についても研究範囲を広げて取り組むことができ、10 数年さまざまな勉強をさせていただいた。ありがとうございました。

先進市の一つとして、今後もその位置を守り、先進市としての刈谷市を日本のトップランナーに育てていただきたい。今日の議論でいうならば、機能的な NPO に関する議論のみならず、地縁的な町内会活動に関する議論は、21 世紀の共存・協働のまちづくりにおいて欠かすことができない。NPO と地縁型が、車の両輪となりよいまちが作れる。そうした共存・協働のまちづくりを期待しています。